

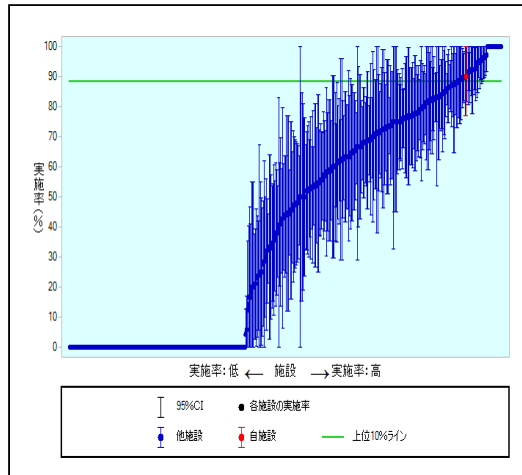
QI-ut4x（実態指標）cStage I A子宮体癌への腹腔鏡手術

分子： 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（ロボット含む）を受けた患者

分母： 子宮体癌cStage I Aで子宮悪性腫瘍手術を受けた患者

コメント：

グループ全体：（対象患者数）7664（実施率）61.6% **自施設**：（対象患者数）20（実施率）90%



患者さんの全身状態(BMIや既往歴)によっては、開腹が推奨されるケースもありますが、当院では9割の患者さんが腹腔鏡を使用した手術を受けています。

Stage I～II Aの子宮体癌では、腹腔鏡手術と開腹手術の間で生存率や再発率に差がないことが証明されています。

また腹腔鏡手術は身体への負担軽減のほか美容的なメリットも大きく、合併症のリスクも低減され社会復帰も早まります。